

ビデオカメラの操作方法を学び、取材テーマを話し合う親子



復興の姿 子どもの視点で撮影

石巻市 日3月8日

東松島市図書館など アーカイブワークショップ

子どもがビデオカメラを使って震災や復興に関する映像を制作する「きつず夏休み復興アーカイブ記録・編集ワークショップ」が7月31日、東松島市コミュニケーションセンターで開かれた。8月10日にはチームごとの編集作業と制作発表会を行い、児童の自由研究などに生かしてもらおう。

独立行政法人防災科学技術研究所社会防災システム研究領域の主催で、震災を語り継ぐ資料の収集を実施している東松島市図書館が共催した。小学生親子など市内から3チーム

10人が参加。2日間のワークショップになっており、初日は同研究所の委託スタッフからビデオカメラの使い方やテーマの設け方、取材方法を教わった。テーマは「自分が大

人になったときに自分の子どもや孫に伝えたい震災のこと」「震災の記憶を記録としてとどめておきたいこと」「復興への様々な取り組み」など自由。1人に1台のビデオカメラ

が貸し出され、10日までに各チームのテーマに沿った取材を進める。夏休みの自由研究として学校に提出できるように、作品の内容を模造紙などにまとめることにしている。

同市川下の寺田あけみさん（40）は、長男の洸さん（12）と小野小6年Ⅱ、二男の薫さん（10）と4年Ⅱと参加した。あけみさん

は昨年、大津波で吉田川を流されていく夫婦を土手から偶然に撮影。震災後その夫婦と交流が生まれたことから、親子でインタビューすることにした。

あけみさんは「（取材対象の夫婦は）教訓として自分の体験を広めている人なので、私たち親子も手伝いたい。多くの人にも見てもらえる作品になればいい」と話した。

ワークショップの講師で、自治体などの復興アーカイブス制作への助言もしている小島誠一郎さん（3・11まると）アーカイブス事務局Ⅱは「日常生活を意識して撮影する人は少なく、まずはカメラなどに慣れることが大事。子どもの視点は、将来のまちづくりを考える上で重要」と勧めていた。